

NEWS LETTER

Vol.01
2022.06.02

本学で大学院連合メンタルヘルスセンターの実習を行いました。

2022年4月26日(火) 9:20-12:30



特定非営利活動法人大学院連合メンタルヘルスセンター(MHC)は、人がいきいきと働くことができる**社会の実現**に向けて、メンタルヘルスの分野から様々な事業を実施されています。例えば、大学院連合メンタルヘルスセンター所属の相談員が労働者を対象にカウンセリング活動を行う**相談員活動**や、事業所への**ストレスチェック**、法人や団体等への**セミナー事業**などです。

また、大学院連合メンタルヘルスセンターは、心理臨床系専攻の学部生や大学院生を対象とした**産業系実習**を行ったり、働く人たちの支援を行う**臨床心理士、公認心理師等の養成及び支援**をされています。

現場から学ぶ姿勢の重要性



大学院連合メンタルヘルスセンター代表理事の三戸秀樹先生より、まず労働に関する歴史や今までの対策、**予防的対応への心理学応用**などについてご講義いただきました。働く人のこころの問題は現場で起こっているため、**その現場を観察し、現場から学ぶことが重要**であるとお話をいただきました。

次に、大学院連合メンタルヘルスセンターの活動の現状とこれからについてご講義いただきました。

最後には質疑応答の時間を設けていただき、コロナ禍による働き方の変化で起こったメンタル不調についての質問に答えてくださいました。

実習で得た学び



今回の実習を経て、働く人がより生き生きと働けるためには、支援にあたる事業所の仕事内容や現在の就労環境など、**心理学以外の知識も身につけて、働く人の悩みを知ろうとする姿勢**が大切であることを学びました。

編集後記

大変お忙しい中、本学まで足をお運びいただきました、大学院連合メンタルヘルスセンターの三戸秀樹先生に心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER

作成：Aクラス本田・Bクラス森本



NEWS LETTER Vol.02(Aクラス)

2022.06.16

神戸アドベンチスト病院(山形謙二名誉院長のお話)

2022年5月24日(日) 9:00 - 12:00



神戸アドベンチスト病院は「キリストの愛と確かな医療をもって心と体のいやしをめざします」という理念のもと、**身体的苦痛だけではなく、心と魂の苦痛をも癒す全人的ケア**を行っている病院です。1973年に厚生労働省の認可を受けて以来、一般病棟は急性期病院としての役割も果たしています。また1992年には**兵庫県で最初にホスピス病棟が開設されました**。ホスピス病棟では、患者さんが**最も自分らしく満ち足りた最期の時を迎えられるよう**に医師、看護師、病院付牧師、理学療法士、管理栄養士などそれぞれの職域を持つスタッフが1つのチームとなり連携して患者さんのケアにあたっています。山形先生は20床ある病床一つ一つを最長合計2時間かけて、患者さんが話しやすいような雰囲気の中、丁寧に回診を行っておられます。

吉田先生・高木先生・森本先生のお話



患者さんを一番大事に

神戸アドベンチスト病院がホスピス病棟で行っているケアの一つに**ディグニティセラピー**があります。

ディグニティセラピーには、人生を振り返り考えさせられるような内容の9つの質問があらかじめ用意されています。ここでは数回の面接を通して、吉田浩行先生が患者の語ったことを手紙の形にまとめておられます。患者さんが亡くなった後、手紙を受け取った家族や友人がそれを心の支えとしたりすることもあり、ディグニティセラピーは遺される者の**グリーンケア**にも繋がるとされています。

緩和ケア認定看護師である高木佳恵先生には、「生きる意味」を満たす3つの価値（**創造価値・体験価値・態度価値**）があること、患者さんがそれらを感じられるように生活を支えていることを教えていただきました。

看護師長の森本美香先生には、患者さんの**自己実現のお手伝いをする**というスタンスがホスピス病棟の特徴であり、何か決めるのは医療者ではなくいつも患者さんであること、患者さんの**身体的苦痛を取り除く**にあたっては薬物の使用だけではなく看護師が体勢を細かく変えたりして援助していること、患者さんにいつでもお話したいと思っていただけるように、**忙しさを見せない**ことを心がけておられることなど、普段の様子を交えながらお話いただきました。

施設見学



ホスピス病棟には面会に来た家族が料理をするためのキッチンが備え付けられています。また、ラウンジは団らんでできる場所、ピアノや読書を楽しむ場所、絵画や写真など患者の作品展をする場所としても機能します。季節を感じる展示物も各所に置かれており、中にはスタッフによる工作物もあります。

編集後記

いかに患者一人一人を大切に思っているか、「知識と技術に裏付けられた徹底的な優しさ」によって援助を行っているかがお話を聞く中でどんどん伝わってきました。お時間いただきありがとうございました。

NEWS LETTER Aクラス: 和田



NEWS LETTER Vol.02(Bクラス)

2022.06.09

立花愛の園幼稚園での見学実習を行いました。

2022年5月24日(火) 9:20 -12:30



認定こども園立花愛の園幼稚園では、「よりよい社会と幸福な人生の創り手となるしなやかな子どもを育てる」ことを教育目標とし、保育を実施されています。今回の見学実習は、心理師として教育領域に関わる上で重要になってくる、「**幼児教育の実際の現場を知る**」第一歩となる貴重な体験となりました。

はじめに幼稚園の概要について説明を受けた後、1歳から5歳までのクラスを見て回りました。遊びを中心とした、**子どもの主体性を育てる活動**や、子どもたちの**年齢・発達段階に合わせた先生たちの関わり方**、**園庭でいきいきと活動する子どもの姿**などを見ることができ、さまざまな学びを得ることができました。見学後には、私たちが実際に保育に触れてみて疑問に思ったことに対して、丁寧に答えてくださいました。

実習指導者の先生のお話

保育における「見守り」



立花愛の園幼稚園の教育では、子どもの生活と遊びを「**子供自身が自由に選んで行う活動**」と「**教師が意図的に経験させる活動**」の2つの側面から捉えています。また、どちらの活動においても大切なことは、**子どもに自分で試行錯誤し、考え、発見する経験を得てもらうために、保育者が敢えてすぐには助けず、寄り添い見守ること**だとお話されました。

相手のペースに合わせて忍耐強く見守るという保育者の姿勢からは、心理師の在り方として一つの学びとなるものがありました。濱名先生と森先生のお二人が、具体的な話も交えて、わかりやすくお話をしてくださいました。

施設について



施設内を見学するなかで、乳児保育では大人の都合で待たせて子どもが退屈する時間を減らすために先生方が道具を準備される姿や、子どもの好奇心や興味を引くような工夫がされていることを知りました。**子どもを取り囲む環境からのアプローチ**も行うことで、より充実した保育を実践されていました。

編集後記

お忙しい中でも、私たちが快く迎えてくださり貴重な体験をさせていただきました、立花愛の園幼稚園の皆様にご心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER 作成:田村



NEWS LETTER Vol.03 (Aクラス)

2022.06.23

武庫愛の園幼稚園に見学実習に行ってきました！

2022年6月14日(火) 10:00 -12:00



先生方は**子どもたちが主体的に考え、多くの経験が出来るように**言葉のかけ方や環境作りを工夫されていることが分かりました。幼稚園に入るまでの育った環境や生育歴・発達の段階に沿って保育を行っており、子ども一人一人に合わせて先生方が関わっている印象を受けました。また、幼稚園に慣れない園児さんやけんかをしてしまった子どもたちに対して、必ず行動の理由を聞いて**子どもの気持ちを汲んであげる**ことを大切にされているようでした。丁寧に子どもの声に耳を傾け、分かってあげることによって先生や幼稚園が子どもにとって安心できる場所になっているのだと感じました。まだ自分の意思を伝えることが難しい1歳・2歳の年齢では、先生が気持ちを汲み取ってあげることがより大切であることも学びました。保護者に対しても**傾聴と受容**の姿勢を大切にされており、園で出来ることはないかを職員全員で話し合っており、**子どもにとって一番良い方法は何か**を常に考えて保育を行っていることが分かりました。傾聴や受容の姿勢は心理職に通ずるものがありました。

濱名先生からのお話

-乳幼児への心理的支援とは-



幼稚園のカウンセラーは、発達や育児、子育てに関する相談を主に受けているそうです。保護者に対する支援では、保護者の「**養育者としての部分**」を支援し、子どものより良い育ちのために最善を考えることが大切であることが分かりました。その一方で、無意識のうちに子どもを中心とした見方で保護者に働きかけ、追い詰めてしまう可能性もあるので、**傾聴と受容の姿勢**を忘れてはならないことも学びました。心理職は、第三者として客観的に子どもたちや園の様子を見て、先生や小学校などと連携し、子どもの**未来を見据えた支援**を行うことが重要だと感じました。

また、事後学習では、「心理職として私達にできることは何か」を話し合い、小学校・幼稚園の心理職の連携の必要性や、保育者や子どもだけではなく「幼稚園全体」への**総合的**でかつ**客観的**な支援が重要ではないかなどの意見を交わし、さらに学びを深めました。

保育における見守り

-多方面からのアプローチ-



園内を見学した際にも、子どもの興味や関心を引き出す工夫が至る所に見られました。子どもの「**まだできないけどやってみたい**」という気持ちを汲んで自分で考えたり乗り越えたりする経験を先生たちが提供していることが分かりました。空間や時間の構成、友達同士の関係作り、親子の関係作りなど様々な方面に保育の工夫がありました。それらの工夫によって、幼稚園や先生が子供たちにとって**安心できる場所や存在**になっていることを感じました。

編集後記

お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。将来に繋がるとても良い経験となりました。濱名先生、福谷先生をはじめとする武庫愛の園幼稚園の皆様にご心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER 作成:大西



NEWS LETTER Vol.03 (Bクラス)

2022.06.23

大阪市立南中学校での見学実習を行いました。

2022年6月14日(火) 10:00 – 13:00

大阪市立南中学校は、全校生徒約160名の小規模な中学校で、外国籍や外国にルーツのある生徒も約4割通っており、**多様性を認め合いながら**学校生活を送っているという特徴があります。今回の見学実習は、教育領域に関わる仕事に就く際に活かすことのできる**“学校の現状や現場が抱えている問題とその対応について知る”**貴重な学びを得る機会となりました。



はじめに校長先生から南中学校の概要や現状、これまでの経験(事例)などについてお話を伺ったあと、スクールカウンセラーの良原先生からスクールカウンセラーの活動内容、仕事をするうえで留意していることなどについて教えていただきました。最後に生徒の給食準備の様子を見せていただき、学校の雰囲気に触れることができました。

実習指導者の先生のお話

スクールカウンセラーの仕事



スクールカウンセラーは配置される時間と日数が決まっているため、限られた時間の中で様々な仕事を行う必要があります。相談業務だけでなく、コンサルテーションや会議への出席、授業観察、多職種・他機関との連携などたくさんの業務を行うことが求められています。「**チーム学校**」で動くことを基本とし、そのなかで**課題や問題の背景を考える**という心理職の専門性を活かす姿勢のあり方を学びました。さらに、**学校(子ども・教職員)の教育を成立させるためにどうサポートするかを多角的に考えていく必要がある**ということもお話いただきました。

施設について



カウンセリングルームも見学させていただき、部屋のつくりや配置についても説明していただきました。部屋にはたくさんのおもちゃがあり、遊びを通してどのようなことを観察しているかなどについても教えていただき、新たな視点を得ることができました。

編集後記

お忙しい中、大変貴重な経験をさせていただきました松井校長先生、良原先生に、心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER 作成：2班 永田



NEWS LETTER Vol.04(Aクラス)

2022.09.15

西宮市立こども未来センターで実習を行いました。

2022年8月22日（月） 13:00 -16:00



西宮市立こども未来センターは、「こども自身の自分らしい豊かな人生の実現」のための支援を行うことを目的として**福祉・教育・医療が連携**し、切れ目のない支援を行うために開設されました。

18歳までの子どもの心身の発達や療育・福祉サービスに関すること、不登校・情緒不安定・性格等や教育に関することなどの相談を受けられており、相談内容によって継続して面談を行うことや、センター内で行われている様々な支援に繋げるほか、学校園や関係機関との連携も行われています。

施設内には、相談室をはじめとした、保育室、診察室、理学療法室、作業療法室、言語療法室、遊戯療法室、学習室、など、それぞれの用途で使い分けられる部屋が設けられていました。

福祉・教育分野における心理支援



繁田先生、日野先生から、保護者や子どもと接する上で意識されていること、大切にされていることとして、**一人一人に関心・興味を持つこと**、というお話をしていただきました。どのような方なのか、どのようなことを思われているのか、という視点を大事にされており、**その子らしさを知り、その子自身が自分の持っている力をどのようにして発揮できるか**を考えて子どもと接されていることが分かりました。同じ悩みを抱えられているからといって、決めつけを行うのではなく、同じ悩みを抱えられていても、必要な支援や求められることは異なるため、**一人一人に適した支援**、その方々に**必要な支援**を行うことが大切であることを学ぶことが出来ました。

施設内の見学



繁田先生、日野先生、石本様に、西宮市立こども未来センターの施設内を案内していただきました。施設内には、子どもが安心して過ごせる、利用しやすい工夫がいたるところにされており、子どものことを一番に考えられている施設であることを改めて感じる事が出来る貴重な機会となりました。

編集後記

お忙しい中、貴重なお話を頂き、ありがとうございました。繁田先生、石本様、日野先生、谷口様をはじめとする西宮市立こども未来センターの皆様にご心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER 作成:浜田



NEWS LETTER Vol.04(Bクラス)

2022.09.20

兵庫医科大学病院での見学実習を行いました。

2022年8月24日(水) 10:00 - 13:30 **兵庫医科大学病院**は、病床数963床、職員数2683人、診療科41科の国指定の特定機能病院で、先進医療、がん医療、チーム医療、救急・災害医療に取り組んでいるという特徴があります。また、院内には全診療科に対応する臨床心理部があります。今回の見学実習は、**「大学病院におけるチーム医療と心理師の役割について学ぶ」**貴重な機会となりました。

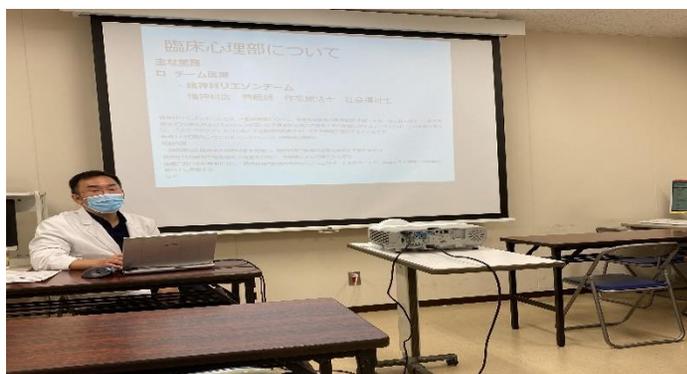


はじめにオリエンテーションを行った後、院内見学を行いました。**多職種連携**を実際に感じることができ、様々な学びを得ることができました。見学後には、吉田先生に講義を行っていただき、1日の動き、チーム医療における役割、大学病院の公認心理師に求められることなどについて教えていただきました。講義の後には、私たちが院内見学や講義で疑問に思ったことに対して、丁寧に答えてくださいました。

はじめにオリエンテーションを行った後、院内見学を行いました。**多職種連携**を実際に感じることができ、様々な学びを得ることができました。見学後には、吉田先生に講義を行っていただき、1日の動き、チーム医療における役割、大学病院の公認心理師に求められることなどについて教えていただきました。講義の後には、私たちが院内見学や講義で疑問に思ったことに対して、丁寧に答えてくださいました。

実習指導者の先生のお話

医療分野における心理師の仕事



大学病院の心理師は、所見や面接記録を作成している最中にも、電話対応や予約対応などの事務作業もしなければならぬことがあります。**専門職である前に医療従事者であり、医療従事者であると同時に組織人であること**などが求められます。そしてチーム医療における役割として、**短期間での対応やチーム内での足並みを揃えること**なども求められます。

吉田先生には、そうした役割を果たしていくためには**日頃から病院内での信頼関係を築いていくこと**、そして**心理職の専門性をしっかり示すこと**が大切であるというお話もしていただきました。

施設について



施設内を見学する中で、面接室ではクライアントの気が散らないように手前に座ってもらうことや、安全のために床がやわらかくなっている部屋があることなど、様々な工夫がされていることを知りました。これらのことから、まずは**環境面を整えることが大切である**ということがわかりました。

編集後記

お忙しい中、大変貴重な経験をさせていただきました吉田先生、兵庫医科大学病院の職員の皆様に心より感謝申し上げます。



本学で神戸少年鑑別所の実習を行いました。

2022年8月26日(金) 13:00 – 16:00



少年鑑別所は、**法務省矯正局**が所管する**国の施設**であり、**法務教官、心理技官、医師**の多職種チームで働いています。主に**鑑別、観護処遇、地域援助**、この3つの業務を行っており、家庭裁判所で観護措置を執られた少年を収容しています。観護措置の期間は2週間～4週間程度であり、最大8週間収容が可能ではありますが、これは否認事件の時にとられるものであり稀なケースです。鑑別では、**こころの動きや行動の意味**を解釈することを重要とし、観護処遇では**自主性を尊重**しつつ、生活場面の支援をしながら行動を観察します。

平成16年以降、少年検挙人員は年々減少しています。それに伴い、**法務少年支援センター**として地域援助にも力を入れています。地域の**非行・犯罪の防止**のため、子どもだけではなく、保護者などの大人や、学校などの関係機関、また関係団体への研修や講演等を行っています。

実習指導者の先生のお話

施設内で重要視していること



今回は、実際に神戸少年鑑別所に伺うことができませんでしたが、吉岡先生より神戸少年鑑別所内などのお写真を見せていただき、実際どのようなところで少年たちが生活しているのかを学ばせていただきました。

少年鑑別所の少年たちは、納得している子、そうでない子と様々な気持ちを抱えて入ってきます。そのような少年たちが鑑別所内で生活していく上で「**通常以上に健康等の管理に気を付けている**」とお話いただきました。教育が必要であるか、まだ決定していない少年たちが来る場所であるため、少年たちが**落ち着いた気持ちで審判**を受けられるように、**規則正しい生活**を促し、**適宜、助言や、指導**を行うことを重要としています。

事例検討を通して



架空の事例をご用意いただき、グループで事例検討を行い、その内容を全体共有しました。事例検討を通して、非行性や要保護性、対応の取り方等の鑑別を行う上でのポイントや考え方、司法犯罪臨床のやりがい、実際に行っていることへのイメージをもち、理解することができました。

編集後記

大変お忙しい中、本学まで足をお運びいただき、そしてとても貴重なお話をありがとうございました。神戸少年鑑別所の吉岡先生、笠原先生には心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER 作成:中川



NEWS LETTER Vol.06(Aクラス)

2022.10.27

大阪大学医学部附属病院 子どものこころの診療センターにて 見学実習を行いました。

2022年9月2日(金) 13:00 -16:00 公認心理師、臨床心理士である山本知加先生より、**子どものこころの診療センター**での公認心理師の仕事についてご講義頂きました。



このセンターでは、小児科、神経科・精神科、産科などの医師と心理師をはじめとするコメディカルが協働して、**発達障害の診療**及び**睡眠外来**を行っています。心理師は、主に**心理発達検査とそのフィードバックを担当**し、保護者に対して検査結果を踏まえた支援方針についてもお話します。

他者とコミュニケーションを取ることが苦手な子ども達に対しては、**ソーシャルスキルトレーニング(SST)**を行っています。子ども達に楽しく学んでもらえるようクイズ形式などにして講義を行っておられるようでした。

また、阪大病院で働く心理師の一週間のスケジュールも紹介していただき、**心理面接、心理検査**だけでなく、**研究や教育、そしてカンファレンス**などによる**多職種との連携**も心理師の重要な仕事の1つであることが分かりました。

山本先生、森先生のお話

大学病院における心理師の仕事



質疑応答の時間では、センターの専任心理師及びPSWの森愛実先生にも加わっていただき、学生たちからの質問に山本先生や森先生が親身になってお答えくださいました。

保護者に対して「お部屋の環境づくりのコツ」などの説明を行う際には、イラストを用いたり表現方法を工夫するなど、**保護者がより理解しやすいよう配慮されている**ことが分かりました。

また、大学病院で働く心理師ならではの仕事内容についても伺いました。**研究も臨床も行うため、新しいことを勉強でき、医療現場の最先端で働くことができる**ことが魅力の1つであると感じました。

検査道具「ADOS」



自閉症診断のために使う検査道具(ADOS)を実際に見せていただきました。おもちゃや本などを用いて子どもに対して色々な働きかけをしながら、それに対する**子どもの反応を見たり、子どもからの働きかけを見る**検査です。子どもに遊ばせその遊びの中での様子を観察するため、被験者の反応自由度が高いと思われ、**検査者の技量が求められる検査**であると感じました。

編集後記

お忙しい中、貴重なお話をお聞かせ下さいました、大阪大学医学部附属病院子どものこころの診療センターの山本知加先生、森愛実先生に心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER 作成:松下



NEWS LETTER Vol.06 (Bクラス)

2022.11.07

医療法人松柏会 榎坂病院の実習を行いました。

2022年9月20日(火)
13:00～16:00



榎坂病院は、大阪府吹田市唯一の精神科病院として、昭和40年の開設以来地域との連携を図りながら開かれた精神医療を行われています。**360床**の病床数を誇り、統合失調症を中心とする**精神科の治療**を行っています。更に精神科外来通院中の患者を対象に**精神科デイケア・ショートケア**も行っていきます。また、大阪大学医学部をはじめ多くの病院、教育機関の学生および研修医の**教育、指導**も行われており、その活動は多岐にわたります。

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から本実習は、オンラインで実施されました。榎坂病院で行われている**事業内容**、精神科病院における**心理職の役割**や**多職種連携、デイケアでの活動内容**について事例もまじえて、ご講義いただきました。また、実際に仕事されている上で留意されていることについても教えていただき、医療領域での心理職の仕事についてイメージをつかむ貴重な経験となりました。

実習指導者の先生のお話 ＜医療領域における心理師の仕事＞

心理職として、実際に榎坂病院でどのような業務を行っているのかをご講義いただきました。病院での心理職の役割は大きく分けて**3つ**あります。

1つ目が、**入院患者さんとの関わり**です。榎坂病院では、病棟の入院患者さんに対しては**担当制**をとっておられ、これによって継続的に経過を見ていくことが可能となっています。患者さんと関係を作っていくながら、日々の関わりの中で患者さんが話される思いや考えを**傾聴**することで、今取り組めることを具体的に探り、関わりの中で得た**情報を多職種と共有**することで今後の対応に役立てるそうです。一見すると他愛もない話でも、そこに患者さんがこれまで語ってこなかった本音が垣間見えることもあるため、慎重に話を聞いておられるそうです。また、患者さんご本人のみならず、ご家族の気持ちに寄り添い、具体的な情報提供を行っておられることを知りました。

2つ目が、**心理検査の実施**です。主治医の指示のもと、入院患者さんや外来患者さんに対して検査・所見の作成を行い、医師がフィードバックします。所見の作成にあたっては、他の職種や患者さんご本人も理解できるよう、専門用語ではなく、平易な言葉を使うなどの工夫が必要があると学びました。心理検査で得られた所見から他の職種が想定している**仮説を裏打ち**できたり、**新たな側面の発見**に繋がることもあるそうです。

3つ目が、**カウンセリング**です。主治医の指示のもと、外来患者さんを対象に行っておられます。日時を設定し、50～60分の枠で行われます。

＜精神科デイケア＞



榎坂病院では、主治医の指示を受けた外来患者さんを対象に、本来の能力や活力を活性化したり、**地域社会での生活**を続けながら病状の安定化を図ることを目的として、**グループ活動**を中心とした**デイケア**が行われています。本実習では実際に実施されているプログラム内容を拝見し、メンバーの**主体性**が発揮されるよう、またメンバーの**社会生活**に役立つように工夫されたプログラムが実施されていることを学びました。

編集後記

大変お忙しい中、貴重なお話を聞かせていただいた、榎坂病院の服部先生、石井先生に心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER 作成: Bクラス 菊本



神戸真生塾での見学実習を行いました。

2022年10月25日(火)
9:20 - 12:20



神戸真生塾は、**キリスト教精神に基づき**福祉サービスが必要とする者が、心身ともに育成され、様々な活動に参加するとともに、個々にあった必要なサービスを総合的に提供し、援助することを目的としている児童養護施設です。神戸真生塾では、**様々な理由で家庭や家族を離れて生活する必要のある子ども達**が、家庭的で心温まるホームの中で、職員から多くの愛をもらい、**愛情と信頼に満ちた明るい生活**をおくっています。また、子ども達が多くの体験をし、成長するためには、地域の人たちの理解や温かい支援が必要で「**地域との関わり・交流**」を大切にしています。そして、退所後も子ども達が生き生きと生活するために、**一人暮らしや職場体験**などの支援も行っています。これを**自立支援**といい、**18歳までにこの子が社会に出ていく上で必要なものは何なのか**を考え、準備を整えていきます。

加藤陽子先生のお話

児童養護施設における心理士の仕事



児童養護施設で働く心理士は、**心理療法担当職員**として働いていて、心理療法を実施したり、職員や関係機関と協力しながら子ども達の支援を行っています。心理的ケアを行う際には、子ども達が「**基本的な安心感、信頼感**」を**抱けていることが大切**で、これらがあるからこそ子ども達がやりたいこと・新しいことに伸び伸びと挑戦できるようになることを学びました。また、集団で生活をしているため、「**個人の尊重**」だけでなく「**全ての子どもを尊重**」する必要があったり、職員同士で情報交換をすることから、セラピー(特別な時間)という枠組みが崩れないような工夫をされていることも学びました。

最後に、心理療法担当職員は、**心理士であると同時に、子育ての場、日常生活の場である神戸真生塾の職員**でもあります。だからこそ、**子どもたちに寄り添い、深く関わることができ、生活の中での課題や人間関係などの問題に対して、多様な支援を行える点が魅力だ**と思いました。

児童棟の見学



施設で暮らす子どもたちの部屋を実際に見させていただきました。部屋には、絵本や図鑑、おもちゃ、子どもたちの描いた絵などが置いてあり、とても賑やかな空間でした。また、一緒に生活するメンバーは4~7人で、きょうだい関係などを考慮して決定しているそうです。

編集後記

お忙しい中、貴重なお話をお聞かせくださいました、神戸真生塾の施設長上杉徹先生、加藤陽子先生に心より感謝申し上げます。

NEWS LETTER 作成:大橋



西宮市保健所健康増進課 精神・地域保健チーム 見学実習を行いました。

2022年11月15日（火）
10:00 -13:00



保健所とは、地域住民の健康保持・増進並びに公衆衛生の向上を図るため、保健・医療・福祉・食品衛生や生活環境等、**市民生活に直結する様々な施策を行っている機関**であり、**多種の保健医療職種によるチームワーク**により、対人保健サービスと対物保健サービスが実施されています。

今回お話を伺った西宮市保健所健康増進課精神・地域保健チームでは、連絡会の開催等の**基盤整備**、予防対策として**こころの健康づくりや自殺対策**、医療保護入院等の事務に関する**医療保護対策**、また**地域精神保健福祉活動として普及啓発、精神保健福祉相談や家族会**など、精神保健福祉に関する様々な事業を行っています。

こころの健康や精神疾患による悩みなどの相談は**無料**で出来ます。相談には医師・保健師・精神保健福祉士などの専門職が対応し、一緒に問題を解決していくための面談や電話による相談が可能です。**相談内容によっては、医療機関や相談支援事業所など関係機関と連携し、支援が受けられる道筋をつけてくれます。**

井戸りか先生のお話

こころのケア事業について



こころのケア事業は、阪神・淡路大震災復興事業として、兵庫県が各被災地に「こころのケアセンター」を設置し、精神科医・心理相談員による相談、巡回訪問等を行っていたことが原点となっています。現在は**電話相談・来所相談**に加え、ひきこもりの当事者・家族の支援として**講演会や家族交流会**を定期的に開催しています。相談に来る人の中には、混乱し何に困っているのか、何がしたいのかわからない人もいますので、問題解決だけを目指すのではなく、**話を聞くこと、力になろうとしてくれるのだと思ってもらうこと**が大切であると学びました。

施設



施設内を案内していただきました。西宮市保健所池田庁舎には、健康増進課、保健予防課、保健総務課、新型コロナウイルス感染症対策室が配置されていました。こころのケア事業の電話相談は心理師のみが在室する個室で行われており、守秘義務が守られる環境が整っていました。

編集後記

大変お忙しい中、貴重なお話をお聞かせくださいました、西宮市保健所の井戸先生、本田様に心より感謝申し上げます。

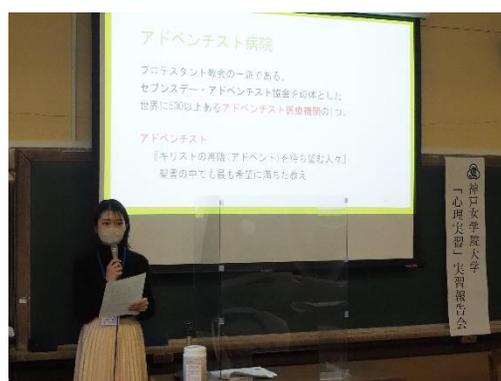


NEWS LETTER

Vol.9
2022.12.22

「心理実習」2期生の実習報告会を行いました

2022年12月13日（火）
9:20 - 12:30



12月13日に、公認心理師資格関連科目の「心理実習」2期生の実習報告会を行いました。「心理実習」では、年間を通して医療、教育、福祉、産業・労働、司法の5領域にわたる各クラス8か所の外部実習を行っています。今年度は11施設へ実習に伺いました。

まず、外部実習に伺った11施設について、各施設につき1名が担当し、11名の実習生が報告を行いました。実習施設についての概要や、施設の社会的役割、心理職の仕事内容、多職種連携について報告しました。

実習生は初めて「現場」を見て体験し学んだこととして、心理職として**第三者的に冷静に判断する役割を求められていること**や、**信頼関係を形成しつつ適度な距離を保ちながら支援していく難しさ**を学んだことを報告しました。また、**多職種とも信頼関係を築きつつ連携しながら、情報共有することの大切さ**など実習指導者の先生方から学んだことを話しました。

「心理実習」で学んだこと

現場を肌で感じて学ぶことができる



次に、「心理実習」で学んだことについて実習生3名が報告しました。

実習生から、グループ学習では他者からの意見を貰い**自分にはない考えを吸収する**ことで、疑問や問題意識を明確にすることができ、**実習先でより学びを深めることができた**ことや、現場実習では**自分の肌で感じて学ぶことができ**、現場ならではの貴重な体験ができたこと、実習指導者の先生方から学んだこと、現場実習を経てさらに問題意識を持ったことについて報告しました。

また、**心理職として客観的な視点を持ちながら、相手を尊重し思いやる姿勢が大切**であることなど、実習生それぞれが「心理実習」で学び、考えたことを交えながら報告していました。

後輩へのメッセージ



最後に、「心理実習」を次年度受講する後輩へのメッセージについて実習生2名が報告しました。

実習生からは、「心理実習」の授業内容や、4月から準備できること、体調管理をしっかりとしつつ、**1人で抱え込まないことが大切**であることなどを発表し、**大変だったが想像以上に楽しく有意義な時間**だったことが話されました。また、2期生が体験し、感じたこととともに、**後輩へあたたかいメッセージ**を送りました。

「心理実習」2期生の実習報告会の詳しい様子は、心理・行動科学科の学生は、Moodleの「資格関連：公認心理師」トピック内でオンデマンド配信しております。

興味・関心のある方は、ぜひご覧ください！

